

丹波新地域ビジョン—概要—

はじめに—ビジョンの役割・性格—

- ◇2050年を展望し、2030年代初頭を想定年次とする「ビジョン」
- ◇ビジョン実現に向けた道筋、方向性を示す
- ◇参画と協働の理念のもと丹波に関わるすべての主体で共有
- ◇『挑戦・成長』をキーワードとする『未来志向のビジョン』

第1部「丹波を知る—学習・理解編—」

I 私たちの丹波—風土・文化、ポテンシャル—

- ◇地形・地質：氷上（水切れ）回廊、篠山層群（恐竜化石）
- ◇共生：森の国、源流の里、里山等での自然、生き物とのふれあい
- ◇豊穡：盆地特有の気候と肥沃な土壌から生まれる特産品の数々
- ◇伝統：古からの文化・文物が脈々と受け継がれてきた地、日本遺産
- ◇交流：京街道の要衝としての歴史、半世紀に及ぶ都市農村交流
- ◇気質：温厚な人々、寛容性に富んだ風土、強い集落の絆

II 丹波の森づくりのこれまでとこれから—継承と発展—

◇**丹波の森づくりの理念、活動**

- ・「丹波の森」= 私たちを取り巻くすべての環境
- ・丹波の森づくり= 『人と自然と文化の調和した地域づくり』
『みんなの共通のふるさとを創っていこう』
- ・「もりびと」= 伝統を守りながらも未来社会を切り拓く能動的人材

◇**丹波の森づくりの取組と成果**

- ・丹波の森宣言に沿った取組で、制度整備、担い手形成、ネットワーク構築、拠点形成、特色ある活動の展開、ふるさと意識の醸成等の成果を生む

◇**地域ビジョンの検証**

- ・地域ビジョンの将来像（自立、交流、元気、絆、安全・安心）は一定程度達成されたが、人材育成、まちの活力など個々の課題も浮き彫りに
- ・地域づくりが進んだが、人口減少によりコミュニティ機能の低下が課題に

◇**これからの森づくりに向けて**

- ・新ビジョンによる丹波の森づくりの「継承と進化」
⇒丹波の森づくりや地域ビジョンの理念を継承し次世代につなぐ
- ⇒理念がめざす持続可能な社会の実現に向け、新たな取組を推進

III 2050年に向けた環境変化—可能性とリスク—

◇**長期的な人口減少・高齢化**（人口減少社会への対応）

- ・地域活動総量upに向けた関係人口の担い手化⇒開かれた地域づくり
- ・人手をかけない持続可能な地域運営⇒スマート技術の活用
- ・地方回帰の傾向⇒人口減少抑制に向けた移住・還流対策の強化

◇**環境制約・資源制約の深刻化**（ローカル・アクションの方向性）

- ・環境負荷の削減、資源利用の最適化⇒低炭素化、食の地産地消、資源循環の推進、共有経済（シェアリングエコミー）、循環経済の確立、バイオマス発電によるエネルギー自立、環境・経済・社会の好循環の実現

◇**超スマート社会の到来**（地域社会の新たな可能性）

- ・個人ニーズに対応したきめ細かなサービス実現⇒移動の自由の実現等
- ・地理的・時間的制約からの解放⇒多自然地域の可能性拡大、利便性よりも創造的活動を支える場（創造都市・農村）であることが重要に
- ・仮想空間を介した新たな人と人の関係性拡大

◇**人々の意識変化**（暮らしやすく、チャレンジできる地域社会の実現）

- ・様々なライフスタイルの選択が可能な地域づくりの推進
⇒一人ひとりに寄り添ったサービスの提供
- ・人々の多様性を地域の力に⇒誰もがチャレンジできる仕組み構築

第2部「丹波を創る—構想・展開編—」

IV 2050年の丹波を描く—望ましい地域社会の姿—

<基本理念>

人と技術の力を活かした、自然の中での多彩な暮らしのカタチの創造・発信
—「人」を創り、「森」を（守り）活かし、新たな「価値」共創に挑む—
<「丹波の森」は「未来社会の暮らしの実験場」、「共創空間」に>

- ◇**人**：最大の資源。人の創造力・想像力が地域を変える源に
- ◇**技術**：人口減少や環境制約の克服、生産性の向上に大きく貢献
- ◇**「森」**：守るべき存在であるとともに、暮らしを豊かにするために活用すべき貴重な資源
- ◇**価値**：丹波らしいオンリーワンの魅力（固有価値）の創出、世界に広がる持続可能な自律分散型居住モデル（普遍的価値）の創出
- ◇**共創**：目標を共有（「共感」）する人たちが、ともに学び、ともに成長し、ともに創る



V 将来像実現に向けた方向性

■空間像—生活空間の再編・創造—

◆**「森」の保全と活用—守り、活かす—**

展開方向1 **森・川・里の自然再生・活用**

- ・災害に強い豊かな森づくり、獣害対策（個体数管理・被害対策等）の推進、丹波産木材の利用拡大、木質バイオマスの利用促進、里山の保全・再生、里山づくりの担い手育成、生き物の生息環境に配慮した河川整備、多様性のある親水空間づくり、もりびとの環境保全・再生・創造の取組への支援

展開方向2 **景観の保全—温かくて、懐かしい丹波の景観を残す**

- ・景観保全の枠組みの堅持、丹波らしい景観の修景・情報発信・ルート整備、花に彩られたまちなか・集落景観の創造

◆**集落、まちの創生—居心地の良い「場」の創出**

展開方向3 **集落保全の仕組構築—未来へつなぐ集落資産**

- ・家屋管理や農地集約化、里山保全の仕組み構築、地域での共同活動の継続・拡大、開かれたコミュニティづくり（集落運営の仕組み刷新：仮想コミュニティの構築）、集落の防災力向上

展開方向4 **エネルギーの自立分散供給—地産地消の実現**

- ・エネルギー自給率100%コミュニティの実現、バイオマス発電の拡大

展開方向5 **次世代都市空間の創造—懐かしも、新しい快適なまちへ**

- ・まちの歴史遺産の継承、賑わいのあるまちの再生、多世代が歩いて暮らせるまちの実現、新しい暮らし方・働き方に対応した次世代都市の実現、継ぎ目のない移動（交通）システムの確立

■社会経済像—新しい経済・雇用のしくみ創出

◆**新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり**

展開方向6 **農の持続化・効率化とフードバリューチェーンの構築**

- ・農の持続可能性の向上、無人（全自動化）農林業の実現、循環型フードバリューチェーンの仕組み構築

展開方向7 **ツーリズムの新展開—多元化、地元化、仮想化**

- ・新たなツーリズム（マイクロ・ツーリズム）の推進、通年型観光の推進、食文化ツーリズム・森林ツーリズムの展開、脱観光型・非観光型ツーリズムの推進、丹波地域の「プラント」化と広域連携、デジタル技術の活用

展開方向8 **製品・サービスの高付加価値化—世界市場との直結**

- ・オンリーワン商品の世界市場展開、まちづくりと一体となった商業振興、地域性、ストーリー性をもった商品の開発

展開方向9 **シシ丹バレー構想の推進—エコシステム構築、DX化推進**

- ・地域発イノベーション創出の仕組みづくり、産官学民のネットワーク構築、ICTを活用した地域産業の生産性向上、優れた人材・技術の域内流入の促進、地域資源を活かしたビジネス推進、空き家・廃校等のビジネス空間としての活用

◆**柔軟な働き方が可能な社会の実現**

展開方向9 **シシ丹バレー構想の推進—起業・事業承継支援**

- ・誰もが起業しやすい環境づくり、伝統産業、農林業等での事業体と人材のマッチング

展開方向10 **多様なワークスタイルの創出**

- ・就業体験機会の拡大、人材の共有化促進、多種多様な小口のしごとのマッチング、副業人材の発掘・活用

展開方向11 **多彩な食農人材の集積促進**

- ・多彩な農のある暮らし（半農半X等）の魅力発信・支援、異能の人材の流入促進、食文化発信拠点としての発展

■人間像—新たな人材、つながり、コミュニティの出現

◆**創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上**

展開方向11 **多彩な食農人材の集積促進 [再掲]**

展開方向12 **もりびと（担い手）の育成・発掘**

- ・地域活動等における若い世代の担い手育成、関係人口の積極的活用、市民イバターの参画促進

展開方向13 **ソーシャル・インクルージョンの推進—全員活躍型社会の実現**

- ・誰もが「居場所」のある地域社会の実現、すべての人が地域に参画できる仕組み構築による地域力向上、ユニバーサル・デザインの地域づくり

展開方向14 **創造都市・創造農村の形成—文化の発信力強化—**

- ・文化創造の拠点形成やクリエイターの交流促進による新たな文化・ライフスタイルの発信、集落等の伝統文化・民俗芸能等の継承・発信、シェパルティアード等の活動継承・発展

展開方向15 **グローバル教育、国際理解教育の実践—世界との連携—**

- ・丹波の森大学のオープン化、グローバル化、多文化共生の推進、ウーンの森等海外との交流の継続・発展

展開方向16 **キッズ・ファーストプログラムの展開**

- ・子どもたちの自然学習の推進、地域の歴史文化、環境・農林業・地場産業・伝統芸能等の体験プログラムの開発

◆**人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現**

展開方向17 **関係人口の拡大+移住・環流の促進**

- ・ビジターをゲストからホストへと誘う仕掛けづくり、移住者の生の声の発信、「人が人を呼ぶ」好循環の流れ創出、たんば暮らしの価値の再発信、集落・地区単位の情報発信、総合対策としての移住・還流対策の展開

展開方向18 **次世代コミュニティの形成**

- ・人と技術の力による安全安心コミュニティ形成、移動の円滑化、エネルギーの自給自足、循環型コミュニティの構築、シェアリングエコミーの仕組み構築

VI 新ビジョンの推進に向けて

- ◆各分野で活躍する内外の組織や人材をゆるやかにつなぐ形での新ビジョン推進組織（「プラットフォーム TAMBA」（仮称））の結成、仮想コミュニティ化の推進
- ◆シンボルプロジェクト毎にその推進を図る「プロジェクトチーム」（仮称）を結成 ◆次代を担う若者による「たんばユースチーム」（仮称）の結成、様々な青少年事業との連携